



新年度予算 住んで安心。 将来基盤構築型予算

一般会計の予算額は

421億8千万円

昨年より10億3千万円の増額

歳入

市 税は、117億4705万円を計上しました。前年度比15.11万円の増額を見込んでいます。

市民税は、法人市民税現年度課税分について税制改正により、一部減収となることから市民税全体として減収を見込みました。また、固定資産税は、家屋の新築・増築件数が伸びたことから増収を見込みました。

繰入金金は、19億4759万円を計上しました。主な歳入は、財政調整基金5億9461万円、減債基金2億円、公共施設整備基金5億円、地域振興基金1億3080万円、ふるさと寄附基金3億200万円などとなっています。

各種交付金・地方譲与税は、29億6796万円を計上しました。法人事業税交付金は、税制改正による法

人市民税の減収分を財源補填するものとして令和2年度より新たに創設される交付金で1億1200万円を見込みました。また、環境性能割交付金は昨年度の消費税増税により創設され、令和2年度は年間を通して交付されることから増収を見込みました。

地方交付税は、102億5000万円を計上しました。普通交付税については、合併に伴う加算措置（合併算定替）の段階的縮減を見込んだ上で国が示す来年度の交付税総額における伸び率を加味し、前年度比3000万円の増額を見込みました。特別交付税は前年度と同額を見込んでいます。

市債は、61億1090万円を計上しました。前年度比4億9390万円の増額を見込んでいます。主な借り入れは、穂高広域施設組合新ごみ処理施設建設事業で23億9190万円、新総合体育館建設事業6億6980万円などです。また、臨時財政対策債は11億9500万円、前年度比2200万円の減額です。

令和2年度安曇野市各会計予算額一覧

単位：千円

| 会計名 | 令和2年度 | 令和元年度 | 対前年度比 | 対前年度比率 % |
|----------------------|-------------------|-------------------|------------------|------------|
| 一般会計 | 42,180,000 | 41,150,000 | 1,030,000 | 2.5 |
| 特別会計 | 21,714,374 | 21,084,597 | 629,777 | 3.0 |
| 国民健康保険 | 9,815,283 | 10,507,526 | △ 692,243 | △ 6.6 |
| 後期高齢者医療 | 1,347,221 | 1,167,317 | 179,904 | 15.4 |
| 介護保険 | 9,453,702 | 9,354,568 | 99,134 | 1.1 |
| 上川手山林財産区 | 1,582 | 1,825 | △ 243 | △ 13.3 |
| 北の沢山林財産区 | 883 | 2,656 | △ 1,773 | △ 66.8 |
| 有明山林財産区 | 1,192 | 3,626 | △ 2,434 | △ 67.1 |
| 富士尾山林財産区 | 1,021 | 1,125 | △ 104 | △ 9.2 |
| 穂高山林財産区 | 1,092 | 1,239 | △ 147 | △ 11.9 |
| 産業団地造成事業 | 1,084,696 | 32,412 | 1,052,284 | 3246.6 |
| 有明荘 | 7,702 | 12,303 | △ 4,601 | △ 37.4 |
| 総計（一般会計+特別会計） | 63,894,374 | 62,234,597 | 1,659,777 | 2.7 |
| 公営企業会計 | | | | |
| 水道事業会計 | 収益的収入 2,349,830 | 2,335,142 | 14,688 | 0.6 |
| | 収益的支出 1,910,760 | 1,887,465 | 23,295 | 1.2 |
| | 資本的収入 269,319 | 386,894 | △ 117,575 | △ 30.4 |
| | 資本的支出 1,738,950 | 1,843,520 | △ 104,570 | △ 5.7 |
| 下水道事業会計 | 収益的収入 4,396,348 | 4,304,266 | 92,082 | 2.1 |
| | 収益的支出 3,773,888 | 3,768,696 | 5,192 | 0.1 |
| | 資本的収入 777,699 | 797,227 | △ 19,528 | △ 2.4 |
| | 資本的支出 2,532,549 | 2,480,707 | 51,842 | 2.1 |

令和2年度は、新総合体育館および新ごみ処理施設の2つの大型事業が継続されることから、限られた資源の有効活用が一層求められます。そのため、前年度と同様に第2次総合計画の基本施策から重点化施策を設定し、そこへ「ひと・かね・知恵（工夫）」を集中投下することで、行財政のスリム化と、短期間での効果創出を目指した予算編成に取り組みました。

歳入予算の増減

